

# 2部

フィールド フィールド  
現場から現場へ

---

---

# 学びは人生を豊かにする

---

通信教育部福祉心理学科卒業生 **松岡 直美**

---

私は、2017年10月に3年次編入で入学し、2022年9月に卒業しました。卒業まで5年という長い道のりでしたが、通信教育部の皆様の支援、スクーリングで出会った一足先に卒業をした学友がいたから、私も卒業することができました、ありがとうございました。

また、寄稿は私にとって成長につながり、「頼まれごとは試されごと」です。この度は依頼いただきましたこと光栄に存じます。

コロナ前に入学をしてスクーリングに通い、コロナ禍となりオンデマンドに切り替え自宅で受講した実体験を、皆さんにお伝えし、微力ではありますが学習の一助になれば幸いです。

---

## はじめに

短大を卒業後に、製造メーカーの営業職として就職をしました。営業職は、コミュニケーション能力が求められ、社内では他部署との関り、社外ではお客様、材料などの協力会社の方など幅広く協同して仕事を進めていました。

しかし、生活や働くなかで他者との意見のすれ違いが発生し、常にストレスとなり窮屈で、何故こんなにも人間関係に悩まなければならないのか？ と考えることが多くなりました。

この問題をどのように解決すればいいか、自分と他者がどのように分かり合えたら幸せになるのか、「心理学」の学問で見通しが立つのかもかもしれないと辿り着き学ぶことを決めました。

## 何故の答えを見つけるチャレンジ

---

会社員として、小学生2児の母として、約20年ぶりの学生生活が始まりました。

私は宮城県に住んでいるのでスクーリング会場に近く、基本は、「会場スクーリング」と決め仙台駅東口キャンパスに通いました。

決め手は2つあり、1つ目は学ぶ仲間がいることや先生の話しを全身で聴くことができ臨場感を味わうことができるからです。2つ目は、仕事や家庭と学生のon offが出来ることが大きな決め手になりました。

スクーリング会場の席は、教壇の近くで前から1列目から3列目の席で受講すると決めていました。会場スクーリングに来る学生は、すべて習得して帰りたい！と学習意欲が高いので、前列の席は競争率が高く、学生の顔触れは殆ど同じで仲良くなりました。

会場スクーリングに行くたびに、学友が増え学習の進捗について話をしたり、履修している心理学について意見交換などが出来ることや、他県から来ている学友との銘菓などお菓子の交換も楽しみのひとつです。時には事務局の方が、黒板に先生の似顔絵やユニークな絵を描いてくれるのも楽しみで、学びの意欲を促進させてくれました。

コロナ前でしたので、会場スクーリングに行くことが出来ましたが、2019年コロナ禍となったときに私にも転機があり、20年所属していた営業課から総務課へ人事異動が命じられました。

この異動によって、人事労務の責任者として、労働法、安衛法、法務、採用など新しい知識の詰め込みが始まり、大学の勉強は一旦休止することに決めました。人事異動やコロナ禍というマイナスな要素が重なり、目の前が真っ暗となりました。

しかし、「異動となり仕事为中心で会場スクーリングに通えない。コロナ禍のため大学の会場スクーリングは休止となりオンデマンド・スクーリ

ングに変更に」これが私には好転となり、「異動により隙間時間を見つけて、時間に拘束されることがなく自分のペースで自宅学習ができる」本当にラッキーでした。

オンデマンド・スクーリングの強みは、自分の隙間時間で視聴し学習を進めることができることです。始業前の時間、昼の休憩時間、自宅に帰ってからの家事をしながらの時間、週末と計画を立てて学習に励みました。苦手な科目は自分の中で理解するまでに時間がかかるため、再生が受講期間内であれば何度でも可能でしたので、活用し知識の定着を図りました。

時には計画通りに行かず、サボりました……。

会場スクーリングの良さは臨場感があり情緒的な繋がりがもてること。オンデマンド・スクーリングは、ライフスタイルや場所に制限なく自分の時間で学ぶことができることです。どちらの学習方法を選択しても学べることに変わりはありませんでした。これが通信教育のメリットです。

## 学んだ事をアウトプット

---

総務課に異動となり、「福祉と心理」の学んだ内容が、日常の業務のなかで必要になっていることに気づかされました。それは、どの職種どの業務内容でも、福祉の視点と心理学の視点が必要だということです。

会社と一緒に働く仲間がいてチームとして活動をして、成果を出しています。その人が働くうえで、モチベーションを促進するための人事評価制度や、賃金体系の構築、採用や人事異動における面談など、能力や適性の判断を有する仕組み作りに含まれていました。

人事評価では、人事考課内容を勤続年数と年齢を加算し賃金との相関関係はどうなのかなど統計学を用いて分析をしています。統計学を極めると、数字から多くの情報を紐解くことができ、便利なツールとなっています。

また、働きたくても働けない社員が社会復帰できるように労働環境の提案や、障害者雇用の担当として、社員のご家族や本人との面談や自立支援に向けた福祉的な支援など、学んだ知識をアウトプットする機会があります。

ただ、学問は一つだけでは不十分であり総合的に学び、新しいこともインプットし続けなければならないことも同時にわかりました。

今後の目標は、社員や家族を包括的に支援できるように、領域にとらわれず学び続け、新しいことにチャレンジしていきたいと考えています。働く時間は睡眠時間を除くと、人生の時間の半分以上を占めていますので、家族や自分の人生を支え豊かな人生を送るための基盤となれるように働きの支援をしていきたいです。

最後に、勉強嫌いの私が、知らないことをもっと知りたい！ 探求心と好奇心で進んで行く、がむしゃらに福祉と心理学に向き合えた新しい自分を発見できました。

学生の皆さんも、色々な目的で通信教育を始められていると思います。時には休息を取り、目的を見失わずに自分のペースで頑張ってください。

答えのないものにどう答えを導き出すのか、その答えはインプットの多さと応用力です。学びを最大限に生かせる輝かしい未来を祈っております。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

